科目名	生活過程を整える実習Ⅰ		単位数	1	時間数	45
実習時期	1年次	担当者	専任教員全員			
実習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護が行われている場および対象を理解し、対象に合わせた日常生活の援助を実施する。 2. 看護者としての基本的姿勢がわかる。 					
実習目標	<p>【看護見学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の患者との関わりを知る。 2. 患者の療養環境および生活を知る。 3. 看護者としての基本的姿勢を知る。 <p>【日常生活の援助実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の生活過程を観察できる。 2. 患者に合わせた日常生活の援助が実施できる。 3. 患者の療養生活を支える施設および多職種を知る。 4. 看護者としての基本的姿勢がわかる。 					
実習内容・方法	<p>【看護見学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師と行動し、患者との関わりや患者の療養環境および生活を見学する。 2. 実習期間：1年次 前期(1日間) 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 <p>【日常生活の援助実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を受け持ち、日常生活の援助を実施する。 2. 実習期間：1年次 後期(5日間) 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活の援助実習にあたり次の科目の単位を修得していること。 看護学概論、日常生活の援助技術、日常生活の援助技術の実際、看護基本技術 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。 3. 看護見学実習を欠席した者は、予備日に出席をする。 					

科目名	地域で生活する人と生活を知る実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 前期	担当者	専任教員全員			
実習目的	地域で生活するあらゆる人々と生活の場と生活のあり様を知り、その人らしく生活するための看護について考える					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人を知る。(DP1、DP2、DP3) 2. 地域で生活する人の生活の場と生活のあり様を知る。(DP1、DP2、DP3) 3. 地域での生活を支える人とその役割を知る。(DP5) 4. 地域で生活をする人のその人らしさを支える看護について考える。(DP1、DP2、DP3) 5. 看護者としての基本的姿勢を意識して行動できる。(DP2) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィールドワークや地域の施設での見学を通し、地域で生活する人と生活のあり様を知る。 2. 実習期間：4月 3. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> ① 子育て支援センター：狛江市子育て支援センター「たんぼぼ」、調布市児童館「子育てひろば」 ② 重症心身障害児施設：島田療育センター ③ クリニック：染谷クリニック、かじわらハートクリニック、やまだ総合内科クリニックはく整形外科運動器エコークリニック、国領めいようクリニック、にゅうむら医院 ④ 就労継続支援施設：クッキングハウス、三鷹ひまわり作業所(第一・第二・第三共同作業所)、創造農園 ⑤ 多世代・多機能型拠点：ふらっとなんぶ、野川のえんがわ こまち ⑥ 社会福祉協議会事業：調布市社会福祉協議会 ⑦ デイサービス：ときわぎ国領、よつや苑 ⑧ 介護老人福祉施設：いなぎ正吉苑、よつや苑、こまえ正吉苑、きたざわ苑、ときわぎ国領、こまえ苑 その他：フィールドワーク 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。</p> <p>実習状況・実習記録・GW発表・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	1. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。					

科目名	生活過程を整える実習Ⅱ		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期	担当者	専任教員全員			
実習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題解決思考に基づき、患者の看護過程の展開をする。 2. 患者の療養生活を支える施設および多職種の役割がわかる。 3. 看護者としての基本的姿勢を意識して行動できる。 					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意図的・系統的に情報収集ができる。 2. 得られた情報を分析し、看護上の問題を明らかにできる。 3. 看護目標を設定できる。 4. 看護上の問題を解決するための計画が立案できる。 5. 計画に基づいて援助を実施できる。 6. 実施した援助を評価・修正できる。 7. 患者の療養生活を支える施設および多職種の役割がわかる。 8. 看護者としての基本的姿勢を意識して行動できる。 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 実習期間：2年次 後期(12日間) 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしている(終講試験の受験資格を有している)こと。 生活過程を整える実習Ⅰ、看護過程の展開 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。 					

科目名	つなぐ～多職種連携・地域包括ケア～実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期	担当者	専任教員全員			
実習目標	さまざまな場で生活する対象の切れ目のない支援を実現するために多職種連携・協働に必要な基礎的能力を養う					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉に関わる多職種の支援を必要とする対象が理解できる。(DP1) 2. 保健・医療・福祉に関わる多職種の役割が理解できる。(DP5) 3. 多職種連携・協働の必要性がわかる。(DP5) 4. 保健・医療・福祉に関わる多職種の連携、協働を通して看護師の役割が理解できる。(DP1、DP2、DP3、DP5) 5. 看護職として、自覚と責任のある行動について考えられる。(DP5) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 慈恵第三病院および各施設の専門職と共に行動し、多職種連携および地域包括ケアの実際を知る <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療機関における多職種連携実習 2) 介護老人保健施設における多職種連携実習 3) 地域における多職種連携実習 2. 実習期間：12月～2月 3. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> 1) 東京慈恵会医科大学附属第三病院 2) 介護老人保健施設：虹ヶ丘リハケアセンター、ふれあいの里、デンマークイン若葉台、よみうりランドケアセンター、いなほ 3) 認知症デイサービス：こまえ苑、こまえ正吉苑、デイプラス狛江のいずみあざれあ 認知症グループホーム：ニチイのほほえみこまえいずみ、わらく、愛の家、木下の介護 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしている 地域・在宅看護概論、老年看護学概論、成人看護学概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。 					

科目名	生活過程を整える実習Ⅲ - 1	単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員		
実習目的	成人期・老年期の特徴を踏まえ、クリティカルケア看護や周手術期看護を必要とする対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期・老年期の特徴を踏まえ、クリティカルケア看護や周手術期看護を必要とする対象を理解できる。(DP1、DP2) 2. 手術・麻酔侵襲による生体反応や手術操作・術式によって生じる術後合併症が理解できる。(DP4) 3. 手術によって生じる形態変化や機能障害が患者へ及ぼす影響が理解できる。(DP4) 4. 術後合併症予防や回復を促進するための援助ができる。(DP4) 5. 患者の問題に対し優先順位を踏まえて看護目標が設定できる。(DP4) 6. 術後の身体状況・セルフケア能力を踏まえ、退院後の生活に向けた援助ができる。(DP4) 7. クリティカルケア看護の場における看護の特徴と看護師の役割がわかる。(DP4) 8. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 9. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3) 				
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 周手術期にある患者を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する。 2) 手術室・集中治療室・救急室の看護師と共に行動し、あらゆる場でのクリティカルケア看護の実際を知る。 2. 実習内容：クリティカルケア・周手術期にある人の看護 3. 実習期間：5月～7月、9月～10月 4. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 				
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。</p> <p>実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。</p>				
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること フィジカルアセスメント・生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 				

科目名	生活過程を整える実習Ⅲ - 2		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員			
実習目的	成人期・老年期の特徴を踏まえ、セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期・老年期の特徴を踏まえ、セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象が理解できる。(DP1、DP2) 2. セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象の身体的問題が理解できる。(DP1、DP4) 3. 疾病や障害・治療によって生じる形態変化や機能障害が患者へ及ぼす影響が理解できる。(DP4) 4. 患者の問題に対し優先順位を踏まえて看護目標が設定できる。(DP1、DP2、DP4) 5. セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象に合わせた援助ができる。(DP2、DP3、DP4) 6. 検査や治療が対象に与える影響と看護の役割が理解できる。(DP1、DP4) 7. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 8. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) セルフマネジメントやセルフケア再獲得を必要とする患者を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する。 2) 透析室・内視鏡室等の看護師と共に行動し、治療や検査をうける対象の理解と必要な支援の実際を知る。 2. 実習内容：セルフマネジメントやセルフケア再獲得を必要とする人の看護 3. 実習期間：5月～7月、9月～10月 4. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること フィジカルアセスメント・生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 					

科目名	生活過程を整える実習Ⅲ - 3		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員			
実習目的	成人期・老年期の特徴をふまえ、緩和ケアまたは終末期看護を必要とする対象に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期または老年期の特徴をふまえ、緩和ケアや終末期看護を必要とする対象を理解できる。(DP1、DP2) 2. 疾病や治療が全身に及ぼす身体的問題が理解できる。(DP1、DP4) 3. 疾病や治療による全人的苦痛が理解できる。(DP1、DP2) 4. 患者の問題に対し優先順位をふまえて看護目標が設定できる。(DP4) 5. 症状のコントロールおよび回復に向けたQOLを高める援助ができる。(DP4) 6. 全人的苦痛の緩和、その人らしく生きることを支えていく援助ができる。(DP4) 7. 自己の死生観を深めることができる。(DP3、DP6) 8. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 9. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 緩和ケアまたは終末期看護を必要とする患者を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する。 2) 外来化学療法室・緩和ケアチームの看護師と共に行動し、対象の理解と必要な支援の実際を知る。 2. 実習内容：緩和ケアや終末期看護を必要とする人の看護 3. 実習期間：5月～7月、9月～10月 4. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること フィジカルアセスメント・生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 					

科目名	在宅看護論実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員			
実習目的	地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解し、在宅における看護についての基礎的な能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上の問題をもちながら在宅で療養している人々が理解できる。(DP1、DP2) 2. 地域で療養しながら生活する人々とその家族の健康状態や価値観に合わせた援助が理解できる。(DP1、DP2、DP5) 3. 患者・家族の持つ療養上の問題とそれに応じた支援のあり方と、シームレスな看護について理解できる。(DP1、DP5) 4. 地域で療養しながら生活する人々とその家族の生活や健康を支援する社会資源の活用について理解できる。(DP5) 5. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 6. 看護者の自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護師に同行し、療養者・家族へ必要な援助を実施する。 2. 外来・総合医療支援センター等での見学を通して、療養者・家族への支援のあり方について考える。 3. 地域包括支援センターでの見学を通して、利用者・家族への支援のあり方について考える。 4. 実習期間：5月～7月、9月～10月 5. 実習場所：狛江市医師会訪問看護ステーション 訪問看護ステーションこまえ正吉苑 調布市医師会訪問看護ステーション ケアプロ訪問看護ステーション東京 中野ステーション 訪問看護ステーションエルハートナースケア 東京慈恵会医科大学附属第三病院(総合医療支援センター、外来等) 地域包括支援センター(狛江市、調布市、府中市) 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること 生活過程を整える実習Ⅱ・地域・在宅看護概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 					

科目名	小児看護学実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員			
実習目的	子どもの成長発達を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康段階にいる子どもと家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階に応じた成長・発達の特徴が理解できる。(DP1) 2. 健康を障害された子どもとその家族の特徴が理解できる。(DP1) 3. 健康を障害された子どもの回復を促す援助ができる。(DP4) 4. 子どもの成長・発達を促す援助ができる。(DP4、DP2) 5. 子どもおよび養護者・家族との相互関係を通して自己の子ども観を発展させることができる。(DP1) 6. 地域で生活する子どもと家族における支援のあり方を理解できる。(DP1) 7. 子どもと家族を取り巻く医療・保健・福祉・教育の連携・協働について理解できる。(DP5) 8. 看護者として自覚と責任を持った行動ができる。(DP3、DP6) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟実習では、小児期にある患児を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 小児科外来実習では、外来看護の実際を見学する。 3. 保育所実習では、地域の保育所に行き、健康な子どもの成長・発達の特徴および特徴に応じた保育活動の見学と参加をする。 4. 重症心身障害児施設に行き、施設の特徴や患児・家族と看護師の関わり方、患児の日常生活の実際、看護師と多職種との連携の場面を見学し、状況に応じてケアの場面に参加をする。 5. 実習期間：5月～7月、9月～10月 6. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 小児病棟・小児科外来 狛江市内の保育所 重症心身障害児施設：島田療育センター 					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること 生活過程を整える実習Ⅱ・小児看護学概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 					

科目名	母性看護学実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員			
実習目的	周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、母性および新生児に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の経過を理解し、妊娠が順調に経過するための援助ができる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 2. 分娩の経過を理解し、安全安楽な分娩のための援助が考えられる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 3. 産褥の経過を理解し、褥婦の健康生活の維持と健康回復への援助ができる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 4. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応についての援助ができる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 5. 生命の尊さがわかり、親性観について考えることができる。(DP3) 6. 保健・医療・福祉に関わる多職種の連携について理解できる。(DP5) 7. 看護者として自覚と責任を持った行動ができる。(DP3、DP6) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として一人の受け持ち対象を中心に看護を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・病棟実習では、新生児室実習と褥婦室(分娩室含む)実習をする。 ・産婦人科外来では、妊婦・褥婦を対象とした実習をする。 2. 実習期間：5月～7月、9月～10月 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 産科病棟・産婦人科外来 わこう助産院 					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること。 母性看護学概論、生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 					

科目名	精神看護学実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期	担当者	専任教員			
実習目的	精神に障害をもつ対象に必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害をもつ対象を身体的、精神的、社会的側面から総合的に理解できる。(DP1、DP2) 2. 精神に障害をもつ対象の看護上の問題を抽出し看護目標が設定できる。(DP4) 3. 看護上の問題を解決するために必要な看護を計画・実施・評価できる。(DP1、DP2、DP4) 4. 精神に障害をもつ対象とより良い関係を築くことができる。(DP1、DP2、DP3) 5. 精神に障害をもち地域で生活する対象への支援がわかる。(DP1、DP5) 6. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 7. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害をもつ対象を受け持ち、看護過程を展開し、看護を実践する。 2) プロセスレコードで場面を再構成し、自分が行った関わりの治療的意味や、自己の認識や表現(対象を尊重した)の傾向を振り返る。 3) 精神科外来、精神科デイケア、就労支援施設において地域で生活するための支援の実際を知る。 2. 実習期間及び場所：12月～2月 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科病院： 医療法人社団翠会 成増厚生病院、 医療法人社団薫風会 山田病院 特定医療法人研精会 稲城台病院 2) 精神科デイケア：医療法人社団薫風会 山田病院 特定医療法人研精会 稲城台病院 慈友クリニック こころのクリニックなります 3) 就労支援施設： クッキングハウス 三鷹ひまわり第一・第二・第三共同作業所 創造農園 4) 精神科外来： 医療法人社団薫風会 山田病院 東京慈恵会医科大学附属第三病院 特定医療法人研精会 稲城台病院 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。</p> <p>実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること 生活過程を整える実習Ⅱ・精神看護学概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 					

科目名	統合実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 後期	担当者	専任教員			
実習目的	あらゆる対象の状況に応じて、既習の知識・技術を統合し、臨床での実践能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受持ち、多重課題のなかで対象の状態と優先度を判断し看護が実践できる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 2. 夜間の患者の様子を知り、療養生活とその援助方法について理解できる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 3. 看護をマネジメントする基礎的能力とその必要性が理解できる。(DP5) 4. 看護チームの一員としての役割と協働、メンバーシップ、リーダーシップが理解できる。(DP5) 5. 医療安全のための基礎的知識と技術が理解できる。(DP3、DP4) 6. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解し、実践できる。(DP5) 7. 看護師としての自己の看護観を考えることができる。(DP6) 8. 看護者としての自覚と責任をもった行動ができる。(DP2、DP3、DP4) 					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児期・成人期・老年期にあるさまざまな健康の段階にある対象を複数受け持ち(2名)、看護チームの中で看護を実践する。 2) 夜間帯の看護業務を担当看護師と行動を共にし、必要な援助を実施する。 3) 看護管理者にシャドーイングし、看護管理の実際を知る。 2. 実習期間 11月 3. 実習時間 日勤帯・夜勤帯に実習する 4. 実習場所 東京慈恵会医科大学附属第三病院 					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたり次の科目を履修していること 統合実習以外のすべての実習 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である 					